

琉球大学学術リポジトリ

高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは：CEFR
2018補遺版に基づくCan-do statementsの開発

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学グローバル教育支援機構国際教育センター 公開日: 2021-05-10 キーワード (Ja): ビジネス日本語フレームワーク, ビジネス日本語能力, ビジネスコミュニケーション, オンライン業務 キーワード (En): Online interaction, CEFR companion volume, business Japanese Framework, online interaction, CEFR companion volume, business Japanese competence, business communication, duties to do online 作成者: 葦原, 恭子, 塩谷, 由美子, 島田, めぐみ, Ashihara, Kyoko, Shiotani, Yumiko, Shimada, Megumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48465

高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは — CEFR 2018 補遺版に基づく Can-do statements の開発 —

葦原 恭子, 塩谷由美子, 島田めぐみ

要 旨

近年, 日本企業においては, 高度人材としての外国人社員の需要が高まっており, その育成・教育・評価に資する枠組の構築は, 喫緊の課題となっている。本研究チームは, 「ビジネス日本語フレームワーク」の構築・確立を目指している。構築にあたり, CEFR 2001年度版をはじめとする既存の尺度の例示的能力記述文をビジネスタスクとして書き換え, 追記し, 例示的能力記述文バンクに約800項目を登録している。2018年には, CEFR 2001年度版の補遺版が発表され, 「Online interaction」スキルについて, 新たな定義と例示的能力記述文が加えられた。このことは, 複言語・複文化社会におけるオンライン上のやりとりの重要性を示していると言えよう。

折しも, 世界は「コロナ禍」にあり, 高度外国人材にとっては, テレワークを始めとするオンライン業務に携わる機会が増加している。しかし, 日本語を使用するオンライン活動の例示的能力記述文に関する研究は, 管見の限り見られない。そこで, CEFR 2018 補遺版のオンライン上のやりとりに関する例示的能力記述文47項目を, ビジネスタスクを含む例示的能力記述文の20項目として書き換え, ビジネス日本語フレームワークの例示的能力記述文項目バンクに登録した。

【キーワード】 ビジネス日本語フレームワーク, Online interaction, CEFR companion volume
ビジネス日本語能力, ビジネスコミュニケーション, オンライン業務

1. 研究の背景

1.1 高度外国人材としての留学生をめぐる状況

法務省(2020)によると, 日本における労働力人口減少とビジネス環境のグローバル化の進展により, 2019年度に高度外国人材として日本企業等に就職した元留学生数の在留許可申請者は, 38,711人と過去最高となり, このうち 30,947人が在留を許可されており, 前年より 7,787人(19.3%)増加しているという。日本の大学や大学院を卒業・修了した高度外国人材は, 少子高齢化が進む日本では大きな戦力になり得るとされている。横須賀(2007)は, 日本企業は, 求める人材に対し, 「日本語力」および「日本人との協調性」を重視しており, 企業が期待する留学生の日本語力は, 「ビジネスレベルで日本人の社員や顧客と円滑にやりとりができる言語運用能力と, 社会, 文化に関する知識を含めた総合的なコミュニケーション能力」であるとしている。そして, 大学や日本語学校など日本語教育の現場では, ビジネス日本語教育のニーズが高まるという状況が続いている。

本研究チームは, コミュニケーション能力の中で, 特にビジネス日本語能力および異文化コミュニケーション能力に焦点をあて, ビジネス日本語教育の現場で到達目標を立てる際, また, 高度外国人材

を雇用した企業が人材を評価・育成する際に資するビジネス日本語の枠組みを確立するため、ビジネス日本語フレームワーク（以下、BJFW とする）を構築し、確立することを目指している。

1.2 高度外国人材をとりまく働き方の変化

総務省は、日本における世帯および企業を対象とした通信サービスの利用状況、情報通信関連機器の保有状況、企業における ICT の利用の現状を明らかにするため、2000 年から 1 年に 1 回、「通信利用動向調査」を実施している。そして、総務省（2020）では、2019 年 12 月現在、次のことが明らかになったとしている。1) インターネット利用者の割合が全体の 89.9%と 9 割に迫っている、2) 企業におけるクラウドコンピューティングサービスの導入割合は 6 割を超えている、3) 「テレワークを導入している」「具体的な導入予定がある」と回答した企業は約 3 割であり、増加傾向にある。産業別では、情報通信業および金融・保険業における導入が多い。

また、国土交通省（2020）は、テレワークの普及について次のように述べている。

政府では、「働き方改革」の一環として、情報通信技術（ICT）を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を可能とする「テレワーク」を推進しています。テレワークは、ワークライフバランスの改善、出産や介護等ライフステージの変化に伴う人材の離職防止、仕事の生産性の向上、災害に対しての事業継続性の確保、大都市圏における通勤混雑の緩和、地域活性化等、多方面に良い影響をもたらすことが期待されています。国土交通省では、都市部への過度の集中解消や地域活性化の観点から、総務省・厚生労働省・経済産業省等と連携し、テレワークの普及・促進に努めています。

以上のような状況を踏まえ、国土交通省は、就労者の働き方の実態を把握することで、今後のテレワークの普及促進策に役立てることを目的とし、1 年に 1 回「テレワーク人口実態調査」を実施している。国土交通省（2020）によると、2019 年 10 月現在、勤務先のテレワークの導入割合については、勤務先に「テレワーク制度等が導入されている」と回答した割合は 19.6%で、そのうち、実際にテレワークを実施したと回答した割合は 49.9%であったという。さらに、2020 年 3 月には、「新型コロナウイルス感染症対策におけるテレワーク実施実態調査」として、在宅勤務によるテレワークの実施状況を調査しているが、これによると、勤務先にテレワーク制度等がある雇用型テレワーカーで、調査対象期間中に感染症対策の一環として、在宅勤務によるテレワークを初めて実施した人の割合は、52.0%であったという。このことから、いわゆる「コロナ禍」により、テレワークという就業形態が広まりつつあることが明らかとなった。

日本国内の状況を見ると、日本語を使用し、業務にあたっている高度外国人材が、テレワークをはじめとするオンライン業務に携わるといった状況は今後も続くと思われる。

1.3 オンラインコミュニケーションスキルに関する先行研究

文部科学省（2019）は、第 5 期科学技術基本計画において Society 5.0 を提唱し、新たな時代に向けた教育政策の方向性を示した。その一環として情報活用能力の育成の重要性が示されている。このような状況を踏まえ、石川（2020a）は、情報教育という観点から、オンライン上でより円滑なコミュニ

ケーションを実現するためには、どのようなコミュニケーションスキルが重要であることを明らかにすることを目的とし、情報教育関連の講義科目を受講している学部生と大学院生にウェブ調査を実施した。そして、特に、社会的スキルや対人関係に関わるスキルに着目し、実際（現実）のオンラインコミュニケーションスキルとの関連や、現実と理想とするコミュニケーションスキルの差異の傾向を明らかにしている。さらに、石川（2020b）では、大学生のオンラインコミュニケーションスキルを育成する際、評価基準となるルーブリックを開発し、その有効性を検証している。その結果、このルーブリックは、コミュニケーションや他者との関わりに関するパフォーマンスを評価する際に活用することができることが明らかになったとしている。

以上の先行研究からは、日本の大学・大学院で学ぶ学生対象のコミュニケーションスキルの解明が進んでいることは明らかであるが、日本語を使用するビジネスタスク、とりわけ、高度外国人材を対象としたオンラインコミュニケーションスキルを明らかにした研究は、管見の限り見られない。

1.4 CEFR 2018 補遺版の刊行

CEFR 2001 年度版（以下、CEFR 2001 とする）が刊行されて以来、欧州評議会に寄せられた多くの要望に応えるべく、CEFR 2018 補遺版（以下、CEFR-CV 2018 とする）が刊行された。CEFR 2001 では、6 レベル（A1,A2,B1,B2,C1,C2）であったレベル設定であるが、CEFR-CV 2018 では、Pre-A1, A2⁺,B1⁺,B2⁺,Above C2 が追加され、11 レベルとされた。さらに、例示的能力記述文（以下、Can-do とする）を拡充し、仲介能力や複言語・複文化能力、文学作品などの評価を伝える能力、そして、Online interaction（以下、オンライン上のやりとりとする）に関する Can-do を収録している。

CEFR-CV 2018 は、オンライン上のやりとりについて、「オンライン上のコミュニケーションは、常に機械を介して行われるため、対面でのやりとりとまったく同じになる可能性はほとんどない」

（p.96）としており、「従来の能力尺度で捉えることは、ほとんど不可能である」（p.96）と指摘している。そして、オンライン上のコミュニケーションが成功するための要件として、次のことを挙げている。1) メッセージにより冗長性を持たせる、2) メッセージが正しく理解されたかどうか確認する、3) 理解を助けるために言い換えたり、誤解に対処したりする力が必要である、4) 感情的な反応にうまく対応する能力が必要である。また、オンライン上のやりとりは、「オンラインでの会話とディスカッション」および「目標が設定されているオンライン上の処理と協働」の2種類に分類され、前者は24項目、後者は23項目と合計47項目の Can-do が提示されている。

「オンラインでの会話とディスカッション」については、「マルチモーダル現象としてのオンラインでの会話とディスカッションに焦点を当て、対話者がオンライン上のコミュニケーションによって、重要な問題と社会的な交流の両方をオープンエンドで処理することに重点を置いている」（p.96）としている。そして、「オンラインでの会話とディスカッション」の尺度を構成するための主要な概念として、次のことを挙げている。1) 同時（リアルタイム）のやりとり、または、連続したやりとりというパターンがあるが、後者では、やりとりのために準備する時間や、他人からの手助けを得る時間があること、2) 一人、または、それ以上の対話者との継続的な対話に参加すること、3) 他の人に返信するために、書き込みや投稿を作成すること、4) 他人の書き込み、コメント、投稿に対してコメント

(例: 評価) すること, 5) 関連するメディアへ反応すること, 6) メッセージに語調・強調・韻律を持たせるために記号・画像・その他のコードを含める能力だけでなく, 感情や感情的な側面や, 皮肉なども含めることができること。

一方, 「目標が設定されているオンライン上の処理と協働」については, 「現代生活の一般的な特色の一つとなっている, 特定の目標が設定されているオンライン上のやりとりが持つ, 潜在的に協働するという性質に焦点を当てている」 (p.98) としている。さらに, 「オンライン上のやりとりは, マルチモーダルである」 (p.98) としており, その特徴により, 「書き言葉と話し言葉の厳密な区別は適用されない。そのため, 能力記述文は, 文脈に応じて使用される様々なメディアやツールの利用を想定している」 (p.98) としている。そして, 「目標が設定されているオンライン上の処理と協働」の尺度を構成するための主要な概念として, 次のことを挙げている。1) 商品やサービスをオンラインで購入すること, 2) 顧客として条件やサービスについて, 交渉しなければならない処理のやりとりをすること, 3) 協働的なプロジェクトに参加すること, 4) コミュニケーションの問題を処理すること。

以上のような背景から, 複言語・複文化社会におけるグローバルなビジネス場面でのオンライン上のやりとりの重要性が明らかとなった。そこで, オンライン上のやりとりに関する Can-do を構築し, BJFW の Can-do 項目バンクに登録することとした。

2. 研究の方法

本研究におけるオンライン上のやりとりに関する Can-do の集約のプロセスは次の通りである。

1) CEFR-CV 2018 (英語版) のオンライン上のやりとりに関する記述を抜粋・翻訳する, 2) オンライン上のやりとりに関する Can-do 全 47 項目を日本語に翻訳する, 3) 葦原他 (2017) において, 直観的手法により設定した基準により, 内容を精査し, ビジネスタスクとして書き換え, オンライン業務に関する Can-do を構築する, 4) BJFW の Can-do 項目バンクに登録する。

3. BJFW のための例示的能力記述文の構築

3.1 書き換えのプロセス

本研究では, まず, CEFR-CV 2018 から抽出したオンライン上のやりとりに関する Can-do である「オンラインによる会話とディスカッション」24 項目, 「目的が設定されているオンライン上の処理と協働」23 項目の合計 47 項目を日本語に翻訳した。その後, Can-do を精査し, 分析し, BJFW に追加するために再構築を試みた。再構築の作業をする上では, 次のようなプロセスが発生した。1) 翻訳した Can-do をビジネスタスクに置き換える, 2) ビジネスタスクに置き換えることができないもの, ビジネスタ

表1 オンライン上のやりとりの Can-do 項目数

オンラインによる会話とディスカッション			
CEFR レベル	CEFR	除外または統合	BJFW
C2	3	0	3
C1	4	0	5
B2 ⁺ ・B2	4	3	1
B1 ⁺ ・B1	4	4	0
A2 ⁺ ・A2	5	4	1
A1	2	2	0
Pre-A1	2	2	0
小計	24	15	10
目標が設定されているオンライン上の処理と協働			
CEFR レベル	CEFR	除外または統合	BJFW
C2	2	0	2
C1	4	1	3
B2 ⁺ ・B2	4	0	4
B1 ⁺ ・B1	5	4	1
A2 ⁺ ・A2	6	6	0
A1	1	1	0
Pre-A1	1	1	0
小計	23	13	10

スクとしては易しすぎるものはリストから除外する, 3) Pre-A1~C2のレベル差がつけられてはいても, 同じようなタスクが含まれているものは統合する, 4) Pre-A1~C2のレベル差をつけるために用いられる条件, 例えば, 「翻訳がぎこちないが」, 「発話に間違いがあるが」などについては削除し, タスクの難易度によってレベル差をつける。

以上のようなプロセスを経て, CEFR-CV 2018のオンライン上のやりとりに関する Can-do 47項目は, BJFWへ集約する Can-do 案の候補として20項目として書き換えられ, BJFWの能力記述文項目バンクに登録された。オンライン上のやりとりに関する Can-do の各項目数は, 表1の通りである。

3.2.1 オンラインによる会話とディスカッション Can-do

3.2.1.1 CEFR C2・C1

オンラインによる会話とディスカッション Can-do の C2・C1 レベルで書き換えられた Can-do は, 表2の通りである。C2 レベルには3項目, C1 レベルには4項目が提示されていたが, これらすべてを BJFW として書き換えた。書き換えのポイントは, 「リアルタイムのオンラインディスカッション」の「リアルタイム」を削除する, 「発生する可能性のある誤解(文化的な誤解を含む)」を「発生する文化的な誤解」とするなど, タスクの意図をより伝わりやすくしている(項目1, 2, 4)。また, C1 レベルの「専門的な, または学術的なライブによるオンラインチャットおよびディスカッションで, 議論を評価したり, 言い換えたり, 論争したりすることができる」という Can-do については, 「オンラインディスカッション」と「オンラインのチャット」の二つの場面に分けることにより1つの Can-do を2つの Can-do に書き換えた(項目7, 8)。

表2 オンラインによる会話とディスカッション Can-do (C2・C1)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
C2	リアルタイムのオンラインディスカッションで感情的な, 曖昧な, または, 冗談を含んだ文脈にも柔軟に敏感に表現を調整して, はっきり正確に自分自身を表現することができる。	1	オンラインのディスカッションに参加するときに, 曖昧な, 時には冗談を含んだ文脈にも柔軟に敏感に反応し, はっきりと正確に自分の意見を述べるすることができる。
	オンラインのディスカッションで発生する可能性のある誤解(文化的な誤解を含む), コミュニケーションの問題, 感情的な反応を予測して効果的に対応することができる。	2	オンラインのディスカッションで発生する文化的な誤解に対して, コミュニケーション上の問題や感情的な反応を予測して, 効果的に対応することができる。
	様々なオンライン環境やコミュニケーション目的や発話行為に合わせて, 言語使用域と文体をたやすく迅速に調整することができる。	3	様々なオンライン環境やコミュニケーションの目的によって必要に応じて表現や文体をすばやく調整することができる。
C1	リアルタイムのオンラインで複数の参加者によるコミュニケーションの意図と文化的な含蓄がある様々な投稿を理解しながら, とやりとりをすることができる。	4	オンラインのチャットで複数の参加者がいる場合, コミュニケーションの意図や文化的な意味を理解しながら, やりとりをすることができる。
	必要に応じて複雑で抽象的な問題に対する追加の説明を求めたり, 与えたりしながら, ライブのオンラインによる専門的または学術的なディスカッションに効果的に参加することができる。	5	オンラインのディスカッションで, 専門的な, または抽象的な話題でも追加の説明を求めたり, 追加の説明をしたりしながら, 参加することができる。
	オンラインでのやり取りの状況によって必要に応じて, 一連のやりとりの中で言語使用域を調整し, いくつかの言語使用域を使い分けることができる。	6	オンラインでのやりとりの中で表現方法を調整し, 敬語を使ったり, カジュアルな表現を使ったりして, 使い分けることができる。
	専門的な, または学術的なライブによるオンラインチャットおよびディスカッションで, 議論を評価したり, 言い換えたり, 論争したりすることができる。	7	オンラインディスカッションで専門的な話題に関する議論を評価したり, 言い換えたり, 論争したりすることができる。
		8	オンラインのチャットで, 専門的な話題に関する議論を評価したり, 言い換えたり, 論争したりすることができる。

高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは
 - CEFR 2018 補遺版に基づく Can-do statements の開発 -
 (葦原, 塩谷, 島田)

オンラインによる会話とディスカッション Can-do の B2⁺・B2 レベルで書き換えられた Can-do は、表3の通りである。B2⁺については、ビジネスタスクに書き換えたが(項目1)、B2 レベルの3項目は、書き換え対象から除外した(項目2,3,4)。除外した項目には、「投稿者が普段は使用しない複雑な表現を避けて、返信に時間をとらせてもらえれば」、「ホストが文化的なスレッド内の自分の投稿を以前の投稿にリンクしてくれれば」、「対話者が協力してくれれば」など、レベル差をつけるために用いられる条件が含まれていたこと、また、「オンラインディスカッションに参加する」、「やりとりに参加する」、「誤解に対応する」などのタスクが C2・C1 レベルの Can-do にも含まれており、重複していたことから、書き換え対象から除外した。

表3 オンラインによる会話とディスカッション Can-do (B2⁺・B2)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
B2 ⁺	オンラインで文化的なスレッド内の自分の投稿を以前の投稿にリンクして、含蓄を理解し、適切に返信して、やりとりに参加することができる。	1	オンラインのチャットでスレッド内の自分の投稿を以前の投稿にリンクして、含蓄を理解し、適切に返信して、やりとりに参加することができる。
B2	オンラインディスカッションで、投稿者が普段は使用しない複雑な表現を避けて、返信に時間をとらせてもらえれば、オンラインディスカッションに積極的に参加することができる。	2	書き換え対象から除外
	オンラインで、ホストが文化的なスレッド内の自分の投稿を以前の投稿にリンクしてくれれば、含蓄を理解し、適切に返信して、やりとりに参加することができる。	3	書き換え対象から除外
	オンラインによるやりとりで対話者が協力してくれれば、その場で発生する誤解や不一致を認識し、それらに対応することができる。	4	書き換え対象から除外

オンラインによる会話とディスカッション Can-do の B1⁺・B1 レベルの Can-do は、表4の通りである。B1⁺レベルには2項目、B1 レベルにも2項目が提示されていたが、そのすべてを書き換え対象から除外した。除外した理由は、「説明されないと詳細や含蓄を理解できないにしても」、「言語のチェックをするオンラインツールを使用することができれば」、「語彙力の制限によって繰り返したり、間違った文型を使ったりしてしまうことがあるにしても」など、レベル差をつけるために用いられる条件が含まれていたこと、また、「個人的な感情を表しながら」、「個人的なオンライン投稿」などという個人的な生活における行動が含まれていたことである。

表4 オンラインによる会話とディスカッション Can-do (B1⁺・B1)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
B1 ⁺	オンラインによるやりとりで、説明されないと詳細や含蓄を理解できないにしても、コミュニケーションの意図を理解しながら、複数の参加者とやりとりをすることができる。	1	書き換え対象から除外
	オンラインに関連するリンクとメディアを参照し、個人的な感情を表しながら、社会的なイベントの情報を書き込むことができる。	2	書き換え対象から除外
B1	事前に内容を準備して、言語のチェックをするオンラインツールを使用することができれば、興味があって馴染みのある話題に関するオンラインのディスカッションに理解可能な投稿をすることができる。	3	書き換え対象から除外
	語彙力の制限によって、繰り返したり、間違った文型を使ったりすることがあるにしても、自分の経験・感情・出来事に関する個人的なオンライン投稿をして、詳細について他の人に個別にコメントを返すことができる。	4	書き換え対象から除外

3.2.1.3 CEFR A2⁺~Pre-A1

オンラインによる会話とディスカッション Can-do の A2⁺・A2 レベルで書き換えられた Can-do は、表5の通りである。A2⁺レベルには3項目、A2 レベルには2項目が提示されていたが、A2⁺の1項目以外は書き換え対象から除外した。書き換えた Can-do については、「日常的な問題・社会的な活動・感情について」という記述を「専門分野や担当業務について」とビジネスタスクにした（項目2）。

一方、書き換え対象から除外した理由は、「返信するために十分な時間が与えられて」、「日常的な予測可能な問題」、「驚き・興味・無関心なことを示す」、「基本的で社会的な」、「オンライン翻訳を使えば」、「否定的なコメントをする」など、ビジネスタスクにはそぐわない内容が含まれていたことである（項目1,3,4,5）。

表5 オンラインによる会話とディスカッション Can-do (A2⁺・A2)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
A2 ⁺	オンラインで、返信するために十分な時間が与えられて、時々、他の参加者と交信することが可能であれば、自己紹介をして、質問をしたり、されたり、日常的な予測可能な話題について考えを述べ合ったりして、簡単なやりとりをすることができる。	1	書き換え対象から除外
	日常的な問題・社会的な活動・感情について簡単に主な詳細情報を示しながら、短い描写のためのオンライン投稿をすることができる。	2	専門分野や担当業務について主な詳細情報を示しながら、オンライン投稿をすることができる。
	他の人のオンライン投稿が簡単な言葉で書かれていれば、簡単な方法で示しながら、関連するメディアに反応しながら、驚き・興味・無関心なことを示すことができる。	3	書き換え対象から除外
A2	基本的で社会的なオンラインによるコミュニケーションでやりとりをすることができる。（例：特別な状況のためのパーチャルカードに関する簡単なメッセージを書く、ニュースを共有する、待ち合わせについて確認する）	4	書き換え対象から除外
	オンラインで、関連するリンクやメディアについて、オンライン翻訳や他の情報を使えば、基本的な表現を使って簡単な肯定的な、または否定的なコメントをすることができる。	5	書き換え対象から除外

オンラインによる会話とディスカッション Can-do の A1・Pre-A1 レベルの Can-do は、表6の通りである。A1 と Pre-A1 レベルには各2項目提示されていたが、これら4項目すべてを書き換え対象から除外した。除外した理由は、「非常に短い」、「非常に簡単な」といったビジネスタスクとしては易しすぎる設定であること、また、「個人的な」、「自分自身について」など、個人的な生活における行動を対象としていたことである。

表6 オンラインによる会話とディスカッション Can-do (A1・Pre-A1)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
A1	非常に短い文章で趣味や好みなどに関して、翻訳ツールを使いながら、非常に簡単なメッセージと個人的なオンライン投稿を書くことができる。	1	書き換え対象から除外
	簡単なオンライン投稿と関連するリンクとメディアについて、短い、肯定的なまたは否定的な返信をするために、基本文型と簡単な単語の組み合わせを使うことができ、感謝や謝罪のための標準的な表現を使ったコメントを返信することができる。	2	書き換え対象から除外
Pre-A1	オンラインで基本的な文型と絵文字を使って、簡単な挨拶をすることができる。	1	書き換え対象から除外
	オンラインでリストから選択することができ、オンラインの翻訳ツールを使うことができれば、自分自身について短い書き込みをすることができる（例：交際状況、国籍、職業）	2	書き換え対象から除外

3.2.2 目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do

3.2.2.1 CEFR C2・C1

目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do の C2・C1 レベルで書き換えられた Can-do は、表7の通りである。C2 レベルには2項目、C1 レベルには4項目が提示されていた。C2 レベルすべてを BJFW として書き換えた。C1 レベルの「リーダーとしてコーディネートできる」という Can-do (項目3) については、B2⁺の「専門分野や担当業務に関するオンライン上の協働作業で目標達成のために、グループのメンバーに役割・分担・締め切りをリマインドすることによってリーダー的な役割を果たすことができる」(表8・項目1) という Can-do と統合した。その他の項目はビジネスタスクとしての意図と状況設定がわかりやすくなるように書き換えた。

表7 目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do (C2・C1)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018		BJFW
C2	協働のプロセス上で起こる誤解を解き、摩擦に効果的に対処することができる。	1	オンラインでの業務のプロセス上で起こる誤解を解き、摩擦に効果的に対処することができる。
	協働作業の推敲と校正の段階でグループの作業に指示をしたり、精度を高めたりする修正をすることができる。	2	オンラインでの資料や原稿の作成する際、推敲と校正の段階でグループの作業に指示をして、精度を高める修正をすることができる。
C1	オンラインプロジェクトをしているグループで詳しい指示を構築・修正したり、メンバーからの提案を評価したり、分担作業を完成するために確認の説明を求めたりしながら、リーダーとしてコーディネートすることができる。	3	B2 ⁺ の Can-do に統合
	ディスカッションと交渉をやりこなすために言語を柔軟に調整しながら、複雑なオンライン処理をサービス係として処理することができる (例: 複雑な要件のある申し込みなど)	4	複雑なオンラインでの処理をする時に、ディスカッションと交渉をやりこなすために言語を柔軟に調整することができる。
	目標を達成するために他の形式のオンライン上の協働作業と同様に指示を正確に理解し、他の人に伝えて、共同執筆と書き直しを必要とする複雑なプロジェクトに参加することができる。	5	オンライン上で、協働で原稿や資料を書いたり、書き直したりする複雑なプロジェクトで、目標達成のための指示を正確に理解し、他の人に伝えたりして、参加することができる。
	オンライン上の協働的処理が必要なやりとり上で起こりうるコミュニケーション上の問題や文化的な問題をメディア (ビジュアル、オーディオ、グラフィック) を通して再構築・確認・例示をすることによって、効果的に処理することができる。	6	オンライン上の協働的なやりとり上で起こりうるコミュニケーション上の問題や文化的な問題をメディア (ビジュアル、オーディオ、グラフィック) を使って説明・確認・例示をすることによって、効果的に処理することができる。

3.2.2.2 CEFR B2⁺・B2・B1

目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do の B2⁺・B2・B1 レベルで書き換えられた Can-do は、表8の通りである。「専門分野や担当業務に関するオンライン上の協働作業で、目標達成のためにグループのメンバーに役割や分担、締め切りをリマインドすることによってリーダー的な役割を果たすことができる」という Can-do (項目1) は C1 レベルの Can-do (表7・項目3) と統合した。

表8 目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do (B2⁺・B2)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018		BJFW
B2 ⁺	専門分野に関するオンライン上の協働作業で目標達成のためにグループのメンバーに役割や分担、締め切りをリマインドすることによってリーダー的な役割を果たすことができる。	1	専門分野や担当業務に関するオンライン上の協働作業で、目標達成のためにグループのメンバーに役割・分担・締め切りをリマインドすることによってリーダー的な役割を果たすことができる。
	自分自身の専門分野に関するオンライン上の協働または処理で、特別な要請が必要な条件交渉や複雑な詳細といったやりとりをすることができる。	2	オンラインで担当業務に関する条件交渉や複雑な詳細を説明するなどのやりとりをすることができる。
	協働的なまたは処理が必要なオンラインのやりとりで起こる誤解や想定外の問題に対して、解決のために丁寧かつ適切に返信することによって、対応することができる。	3	オンラインのやりとりで起こる誤解や想定外の問題があるときに、解決のために丁寧に適切に返信して対応することができる。
B2	プロジェクトを進めているオンライン上のグループで提案を評価したり、分担作業を遂行するために補助的な役割を果たしたり、説明を求めたりしながら、協働することができる。	4	オンラインで社内のプロジェクトをしているグループで、提案を評価したり、分担作業のために補助的な役割をしたり、必要な説明を求めたりすることができる。

目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do の B1⁺・B1 レベルで書き換えられた Can-do は、表9の通りである。B1⁺レベルには2項目、B1 レベルには3項目が提示されていた。B1 レベルの1項目はビジネスタスクに書き換えたが（項目5）、B1⁺およびB1 レベルの各2項目、計4項目は、書き換え対象から除外した。項目を除外した理由の第一には、「対話者が複雑な言語の使用を避けてくれて、必要に応じて繰り返したり言い換えたりしてくれれば」、「作業を遂行する手助けを得られれば」などのレベル差をつけるために用いられる条件が含まれていたことである（項目1,2）。また、第二には、「コースやツアー、イベントに参加する」という個人的な生活における活動が含まれていたことである（項目3）。さらに、「より複雑なコンセプトを確認するための絵・統計・グラフなどの視聴素材があれば」という条件がついた Can-do（項目4）については、C1 レベルの「オンライン上の協働的なやりとり上で起こりうるコミュニケーション上の問題や文化的な問題をメディア（ビジュアル、オーディオ、グラフィック）を使って説明・確認・例示をすることによって、効果的に処理することができる」（項目6）というタスクと重複していたため、書き換え対象から除外した。

表9 目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do (B1⁺・B1)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
B1 ⁺	対話者が複雑な言語の使用を避けてくれて、必要に応じて繰り返したり言い換えたりしてくれれば、幅広い情報のやりとりを必要とするオンライン処理に参加することができる。	1	書き換え対象から除外
	確認を求めたり、分担されたりした作業を遂行する手助けを得られれば、はっきりとした指示に従いながら、オンライン上のグループによるプロジェクトでやりとりをすることができる。	2	書き換え対象から除外
B1	コースやツアー、イベントに登録するため、またはメンバーになるためといった細かい詳細についての簡単な説明と確認を必要とするオンライン上の協働的なまたは処理が必要なやりとりをすることができる。	3	書き換え対象から除外
	より複雑なコンセプトを確認するための絵・統計・グラフなどの視聴素材があれば、オンライン上でプロジェクトを遂行するためのパートナーや小さいグループとやりとりをすることができる。	4	書き換え対象から除外
	オンライン上の分担された作業を完成するために指示に従ったり、質問をしたり、説明を求めたりすることができる。	5	オンライン上の分担された作業を完成するために指示に従ったり、質問をしたり、説明を求めたりすることができる。

3.2.2.3 CEFR A2~Pre-A1

オンライン上の会話とディスカッション A2⁺~Pre-A1 レベルの Can-do は、表10の通りである。A2⁺レベルには2項目、A2 レベルには4項目、A1 レベルと Pre-A1 レベルには各1項目が提示されていた。これら8項目すべてを書き換え対象から除外した。除外した理由は、「日常的な問題」、「簡単な共同作業」、「簡単な言語で書かれている」、「（個人のための）物品を注文する」など、ビジネスタスクとしては易しすぎること、また、個人的な生活における行動を対象としていることである。

高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは
 - CEFR 2018 補遺版に基づく Can-do statements の開発 -
 (葦原, 塩谷, 島田)

表 10 目標が設定されているオンライン上の処理と協働 Can-do (A2+~Pre-A1)

CEFR レベル	CEFR-CV 2018	BJFW	
A2+	オンライン上の処理 (例: 販売されているモデル, 特典, 配達日, 住所など) 上で起こる日常的な問題に対応する形式的な言語を使うことができる。	1	書き換え対象から除外
	簡単な協働作業で協力者がいて, コンセプトを確認するための絵, 統計, グラフなどがあれば, 基本的な指示に対応し, 説明を求めながら, オンラインでインターアクションすることができる。	2	書き換え対象から除外
	他の人のオンライン上の書き込みに, それらが簡単な言語で書かれていれば, 関連するメディアについて驚き・興味・無関心であることを示すことによってコメントすることができる。	3	書き換え対象から除外
A2	オンライン上のアンケートに入力する際に, 個人的な詳細を伝え, 利用規約への同意を確認することによって簡単なオンライン処理 (物品を注文する, コースに登録するなど) をすることができる。	4	書き換え対象から除外
	どのような物品や特徴が得られるかについて簡単な質問をすることができる。	5	書き換え対象から除外
	手助けをしてくれる人がいれば, 簡単な指示に対応したり, 簡単な質問をしたりしながら分担された作業を完成することができる。	6	書き換え対象から除外
A1	基本的な個人情報 (名前, E メールアドレス, 電話番号など) を入力して, 非常に簡単なオンライン上での購入や申し込みをすることができる。	1	書き換え対象から除外
Pre-A1	視覚的な情報があれば, オンラインでの選択 (例: 購入するもの, サイズ, 色) をしたり, 申込書に入力したりすることができる。	1	書き換え対象から除外

3.3 BJFW オンライン上のやりとり Can-do

3.3.1 オンラインによる会話とディスカッション

前節で述べたプロセスを経て, オンライン上のやりとりで「オンラインによる会話とディスカッション」Can-do として BJFW に追加された Can-do10 項目は, 表 11 の通りである。

表 11 BJFW オンラインによる会話とディスカッション

1	専門分野や担当業務について詳細情報を示しながら, オンライン投稿をすることができる。
2	オンラインのチャットでスレッド内の自分の発言内容に対する他の人の反応を適切に理解して返信し, やりとりに参加することができる。
3	オンラインのチャットで, 専門的な話題に関する議論を評価したり, 言い換えたり, 論争したりすることができる。
4	リアルタイムのオンラインディスカッションで, 専門的な話題に関する議論を評価したり, 言い換えたり, 論争したりすることができる。
5	オンラインでのやりとりの中でオンラインでのやり取りの中で, 敬語を使ったり, カジュアルな表現を使ったりするなど, 表現方法を調整し, 使い分けすることができる。
6	オンラインのディスカッションで, 専門的な, または抽象的な話題でも追加の説明を求めたり, 追加の説明をしたりしながら, 参加することができる。
7	オンラインのチャットで複数の参加者がいる場合, コミュニケーションの意図や文化的な意味を理解しながら, やりとりをすることができる。
8	様々なオンライン環境やコミュニケーションの目的に応じて必要に応じて表現や文体をすばやく調整することができる。
9	オンラインのディスカッションで発生する文化的な誤解に対して, コミュニケーション上の問題や感情的な反応を予測して, 効果的に対応することができる。
10	オンラインのディスカッションに参加するときに, 曖昧な, 時には冗談を含んだ文脈にも柔軟に敏感に反応し, はっきりと正確に自分の意見を述べるることができる。

3.3.2 目標が設定されているオンライン上の処理と協働

オンライン上のやりとりで「目標が設定されているオンライン上の処理と協働」Can-doとしてBJFWに追加されたCan-do10項目は、表12の通りである。

表12 BJFW 目標が設定されているオンライン上の処理と協働

1	オンラインでの業務のプロセス上で起こる誤解を解き、摩擦に効果的に対処することができる。
2	オンラインで資料や原稿を作成する際、推敲と校正の段階でグループの作業に指示をして、精度を高める修正をすることができる。
3	複雑なオンラインでの処理をする時に、ディスカッションと交渉をやりこなすために言語を柔軟に調整することができる。
4	オンラインで担当業務に関する条件交渉や複雑な詳細を説明するなどのやりとりをすることができる。
5	オンラインのやりとりで起こる誤解や想定外の問題があるときに、解決のために丁寧に適切に返信して対応することができる。
6	オンラインで社内プロジェクトをしているグループで、提案を評価したり、分担作業のために補助的な役割をしたり、必要な説明を求めたりすることができる。
7	オンライン上の分担された作業を完成するために指示に従ったり、質問をしたり、説明を求めたりすることができる。
8	専門分野や担当業務に関するオンライン上の協働作業で、目標達成のために、グループのメンバーに役割や分担、締め切りをリマインドすることによってリーダー的な役割を果たすことができる。
9	オンライン上で、協働で原稿や資料を書いたり、書き直したりする複雑なプロジェクトで、目標達成のための指示を正確に理解したり、他の人に伝えたりして、参加することができる。
10	オンライン上の協働的なやりとり上で起こりうるコミュニケーション上の問題や文化的な問題をメディア（ビジュアル、オーディオ、グラフィック）を使って説明・確認・例示をすることによって、効果的に処理することができる。

4. 今後の展望

本研究では、CEFR-CV 2018で提示された「オンライン上のやりとり」に関するCan-do 47項目をビジネスタスクとして書き換え、20項目のCan-doを構築した。CEFR-CV 2018では、47項目のCan-doは、Pre-A1からC2までの11レベル設定となっていたが、書き換えられた20項目については、ビジネスタスクに変更したことにより、レベル設定が元のCan-doとは異なる可能性がある。新たな20項目のCan-doについては、日本国内外で就業している高度外国人材を対象にアンケート調査を実施し、各項目の経験の有無および自己評価の結果を明らかにする。

さらに、オンライン上のやりとりに関するCan-doを含むBJFWの項目の必要度を明らかにするため、既に日本国内で就職している高度外国人材と企業担当者にインタビュー調査とアンケート調査を実施し、海外で働く高度外国人材と企業担当者にも調査を実施する。この調査では、主に高度外国人材にとって必要な項目とそうでない項目を判別することを目的とする。調査結果を分析し、BJFWの項目を整理し、確定する。その後、国内および海外で活躍する高度外国人材に対し、各項目についてどの程度できるかを尋ねるCan-do自己評価調査を実施し、項目の難易度を推定するIRTモデルによる分析を行う。この結果に基づき、Can-do項目のレベル設定（A1～C2）を行う。その後、Can-do項目を難易度順に並べ、尺度化し、BJFWを完成する。

【引用文献】

- 1) 葦原恭子・奥山貴之・塩谷由美子・島田めぐみ (2017) 「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築 -直観的手法を中心に-」『琉球大学国際教育センター紀要』創刊号, pp.1-14, 琉球大学国際教育センター
- 2) 石川真 (2020a) 「円滑なオンラインコミュニケーションを実現するためのスキルに関する研究」『上越教育大学研究室紀要』, 第39巻 第2号, pp.248-256, 上越教育大学
- 3) 石川真 (2020b) 「オンラインコミュニケーションスキル評価のためのルーブリックの開発と検討」『上越教育大学研究室紀要』, 第40巻 第1号, pp.2-10, 上越教育大学
- 4) 国土交通省 (2020) 「テレワーク人口実態調査」https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/telework_index.htm (2021年2月26日閲覧)
- 5) 総務省 (2020) 「令和元年通信利用動向調査の結果」
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin02_02000148.html (2021年2月26日閲覧)
- 6) 文部科学省 (2019) 「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる, 学びが変わる～」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf (2021年2月26日閲覧)
- 7) 法務省 (2020) 「令和元年における留学生の日本企業等への就職状況について」
<http://www.moj.go.jp/isa/content/001336801.pdf> (2021年3月1日閲覧)
- 8) 横須賀柳子 (2007) 「企業の求人と留学生の求職に関する意識比較」『留学生教育』12, pp.47-57, 留学生教育学会
- 9) Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment* <https://rm.coe.int/16802fc1bf> (2021年2月25日閲覧)
- 10) Council of Europe (2018) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching Assessment Companion Volume with New Descriptors*
<https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989> (2021年2月25日閲覧)

※本稿は, 科学研究補助金 基盤研究 (C) 「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの確立—尺度化と妥当性検証」課題番号 19K0071 (研究代表者・葦原恭子, 研究分担者・奥山貴之, 塩谷由美子, 島田めぐみ, 野口裕之) の研究成果の一部である。

(葦原——琉球大学, 塩谷——東京富士大学, 島田——日本大学)

【資料】CEFR 2018 補遺版における Online interaction に関する Can-do statements

本研究チームによる CEFR 2018 補遺版における Online interaction に関する Can-do statements の日本語訳は以下の通りである。

オンラインによる会話とディスカッション	
C2	リアルタイムのオンラインディスカッションで感情的な、曖昧な、または、冗談を含んだ文脈にも柔軟に敏感に表現を調整して、はっきり正確に自分自身を表現することができる。
	オンラインのディスカッションで発生する可能性のある誤解（文化的な誤解を含む）、コミュニケーションの問題、感情的な反応を予測して効果的に対応することができる。
	様々なオンライン環境やコミュニケーション目的や発話行為に合わせて、言語使用域と文体をたやすく迅速に調整することができる。
C1	リアルタイムのオンラインで複数の参加者によるコミュニケーションの意図と文化的な含蓄がある様々な投稿を理解しながら、とやりとりをすることができる。
	必要に応じて複雑で抽象的な問題に対する追加の説明を求めたり、与えたりしながら、ライブのオンラインによる専門的または学術的なディスカッションに効果的に参加することができる。
	オンラインでのやりとりの状況によって必要に応じて、一連のやりとりの中で言語使用域を調整し、いくつかの言語使用域を使い分けることができる。
B2+	専門的な、または学術的なライブによるオンラインチャットおよびディスカッションで、議論を評価したり、言い換えたり、論争したりすることができる。
B2	オンラインで文化的なスレッド内の自分の投稿を以前の投稿にリンクして、含蓄を理解し、適切に返信して、やりとりに参加することができる。
	オンラインディスカッションで、投稿者が普段は使用しない、または複雑な表現を避けて、返信に時間をとらせてもらえれば、オンラインディスカッションに積極的に参加することができる。
	オンラインで、ホストが文化的なスレッド内の自分の投稿を以前の投稿にリンクして、含蓄を理解し、適切に返信して、やりとりに参加することができる。
B1+	オンラインによるやりとりで対話者が協力してくれれば、その場で発生する誤解や不一致を認識し、それらに対処することができる。
B1	オンラインによるやりとりで、説明されないと詳細や含蓄を理解できないにしても、コミュニケーションの意図を理解しながら、複数の参加者とやりとりをすることができる。
	オンラインで関連するリンクとメディアを参照して、個人的な感情を表しながら、社会的なイベントの情報を書き込むことができる。
A2+	事前に内容を準備して、言語のチェックをするオンラインツールを使用することができれば、興味があつて馴染みのある話題に関するオンラインのディスカッションに理解可能な投稿をすることができる。
	語彙力の制限によって、繰り返したり、間違つた文型を使つたりしてしまうことがあるにしても、自分の経験、感情、出来事に関する個人的なオンライン投稿をして、詳細について他の人に個別にコメントを返すことができる。
A2	オンラインで、返信するために十分な時間が与えられて、時々、他の参加者と交信することが可能であれば、自己紹介をして、質問をしたり、されたり、日常的な予測可能な話題について考えを述べ合つたりして、簡単なやりとりをすることができる。
	日常的な問題、社会的な活動、感情について簡単に主な詳細情報を示しながら、短い描写のためのオンライン投稿をすることができる。
A1	他の人のオンライン投稿が簡単な言葉で書かれていれば、簡単な方法で示しながら、関連するメディアに反応しながら、驚き、興味、無関心なことを示すことができる。
	基本的で社会的なオンラインによるコミュニケーションでやりとりをすることができる。（例：特別な状況のためのバーチャルカードに関する簡単なメッセージを書く、ニュースを共有する、待ち合わせについて確認する）
Pre-A1	オンラインで、関連するリンクやメディアについて、オンライン翻訳や他の情報を使えば、基本的な表現を使って簡単な肯定的な、または否定的なコメントをすることができる。
	非常に短い文章で趣味や好みなどに関して、翻訳ツールを使いながら、非常に簡単なメッセージと個人的なオンライン投稿を書くことができる。
Pre-A1	簡単なオンライン投稿と関連するリンクとメディアについて短い、肯定的なまたは否定的な返信をするために基本文型と簡単な単語の組み合わせを使うことができ、感謝や謝罪のための標準的な表現を使ったコメントを返信することができる。
	オンラインで基本的な文型と絵文字を使って、簡単な挨拶をすることができる。
	オンラインでリストから選択することができて、オンラインの翻訳ツールを使うことができれば自分自身について短い書き込みをすることができる。（例：交際状況、国籍、職業）

高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは
 - CEFR 2018 補遺版に基づく Can-do statements の開発 -
 (葦原, 塩谷, 島田)

目標が設定されているオンライン上の処理と協働	
C2	協働のプロセス上で起こる誤解を解き、摩擦に効果的に対処することができる。 協働作業の推敲と校正の段階でグループの作業に指示をしたり、精度を高めたりする修正をすることができる。
C1	オンラインプロジェクトをしているグループで詳しい指示を構築・修正したり、メンバーからの提案を評価したり、分担作業を完成するために確認の説明を求めたりしながら、コーディネートすることができる。 ディスカッションと交渉をやりこなすために言語を柔軟に調整しながら、複雑なオンライン処理をサービス係として処理することができる (例: 複雑な要件のある申し込みなど)
	目標達成のために精密さを持って、指示に従ったり伝えたりしながら、オンライン上の協働に関するフォームと同様に協働して書いて、修正する必要がある複雑なプロジェクトに参加することができる。 オンライン上の協働的な、または処理が必要なやりとり上で起こりうるコミュニケーション上の問題や文化的な問題をメディア (ビジュアル, オーディオ, グラフィック) を通して再構築・確認・例示をすることによって、効果的に処理することができる。
B2+	自分自身の専門分野に関するオンライン上の協働作業で、目標達成のために、グループのメンバーに役割や分担、締め切りをリマインドすることによってリーダー的な役割を果たすことができる。 自分自身の専門分野に関するオンライン上の協働または処理で、条件交渉や複雑な詳細と特別な要請が必要なやりとりをすることができる。
	協働的なまたは処理が必要なオンラインのやりとりで起こる誤解や想定外の問題に対して、解決のために丁寧かつ適切に返信することによって、対応することができる。
B2	プロジェクトを進めているオンライン上のグループで提案を評価したり、分担作業を遂行するために補助的な役割を果たしたり、説明を求めたりしながら、協働することができる。
B1+	対話者が複雑な言語の使用を避けてくれて、必要に応じて繰り返したり言い換えたりしてくれれば、幅広い情報のやりとりを必要とするオンライン処理に参加することができる。 確認を求めたり、分担されたりする作業を遂行する手助けを得たりすることができるれば、はっきりとした指示に従いながら、オンライン上のグループによるプロジェクトでやりとりをすることができる。
	コースやツアー、イベントに登録するため、またはメンバーになるためといった細かい詳細についての簡単な説明と確認を必要とするオンライン上の協働的なまたは処理が必要なやりとりをすることができる。 より複雑なコンセプトを確認するための絵・統計・グラフなどの視聴素材があれば、オンライン上でプロジェクトを遂行するためのパートナーや小さいグループとやりとりをすることができる。
B1	オンライン上の分担された作業を完成するために指示に従ったり、質問をしたり、説明を求めたりすることができる。
	オンライン上の処理 (例: 販売されているモデル, 特典, 配達日, 住所など) 上で起こる日常的な問題に対応する形式的な言語を使うことができる。 簡単な協働作業で協力者がいて、コンセプトを確認するための絵, 統計, グラフなどがあれば、基本的な指示に対応し、説明を求めながら、オンラインでインターアクションすることができる。
A2+	オンライン上のアンケートに入力する際に、個人的な詳細を伝え、利用規約への同意を確認することによって簡単なオンライン処理 (物品を注文する, コースに登録するなど) をすることができる。
A2	どのような物品や特徴が得られるかについて簡単な質問をすることができる。 手助けをしてくれる人がいれば、簡単な指示に対応したり、簡単な質問をしたりしながら分担された作業を完成することができる。
	基本的な個人情報 (名前, E メールアドレス, 電話番号など) を入力して、非常に簡単なオンライン上での購入や申し込みをすることができる。
Pre-A1	視覚的な情報があれば、オンラインでの選択 (例: 購入するもの, サイズ, 色) をしたり、申込書に入力したりすることができる。

What Kinds of Online Interaction Skills are Needed to be a High-skilled Foreign Personnel: Through Developing New Descriptors Referring to CEFR Companion Volume

ASHIHARA Kyoko, SHIOTANI Yumiko, SHIMADA Megumi

Abstract

In recent years, the demand for foreign employees as high-skilled personnel has been increasing in Japanese companies. Along with this situation, the development of a framework that contributes to its development, education, and evaluation has become an urgent issue. We are aiming to build and establish a “Business Japanese Framework” (BJFW). To build up BJFW, we have rewritten and added can-do statements of existing scales such as CEFR 2001 as business tasks and have already registered about 800 items in our Can-do statements bank.

In 2018, the CEFR companion volume with new descriptors was made public, adding a new definition and can-do statements for the “Online interaction” skills. This indicates the importance of “Online interaction” in a multilingual and multicultural society.

Currently, the world is facing a pandemic situation due to the spread of the new Coronavirus, and opportunities for high-skilled foreign personnel to engage in online operations such as telework are increasing. However, can-do statements for online activities using the Japanese language have not been established yet. Therefore, we created new 20 items of can-do statements for BJFW related to online communication by excerpting and rewriting 47 items shown in CEFR companion volume.

【Keywords】 business Japanese Framework, online interaction, CEFR companion volume
business Japanese competence, business communication, duties to do online

(ASHIHARA: University of the Ryukyus, SHIOTANI: Tokyo Fuji University, SHIMADA: Nihon University)